

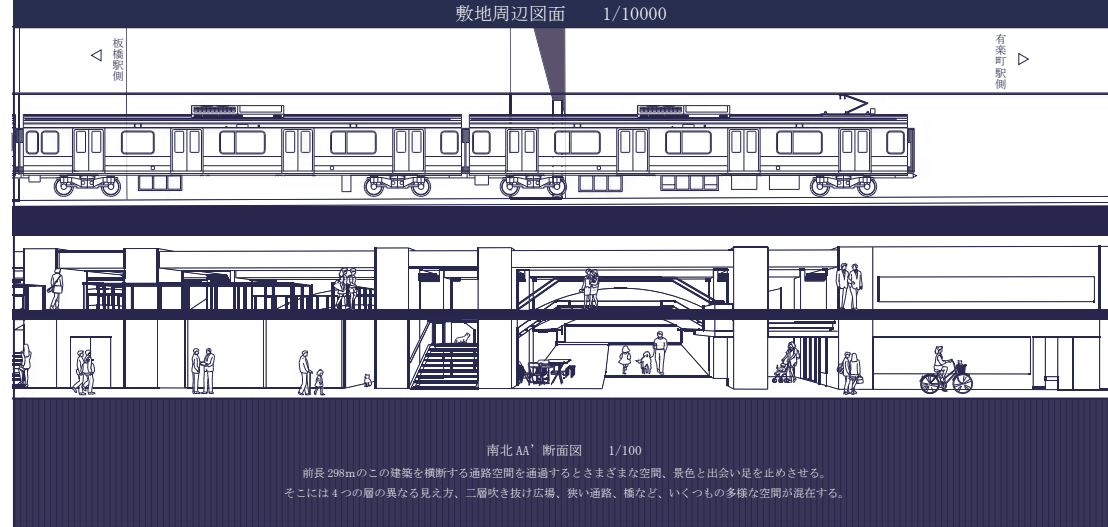
懐古的未来建築 - 多層的な時間を内包する空間手法の提案 - retro-future-architecture

背景・目的

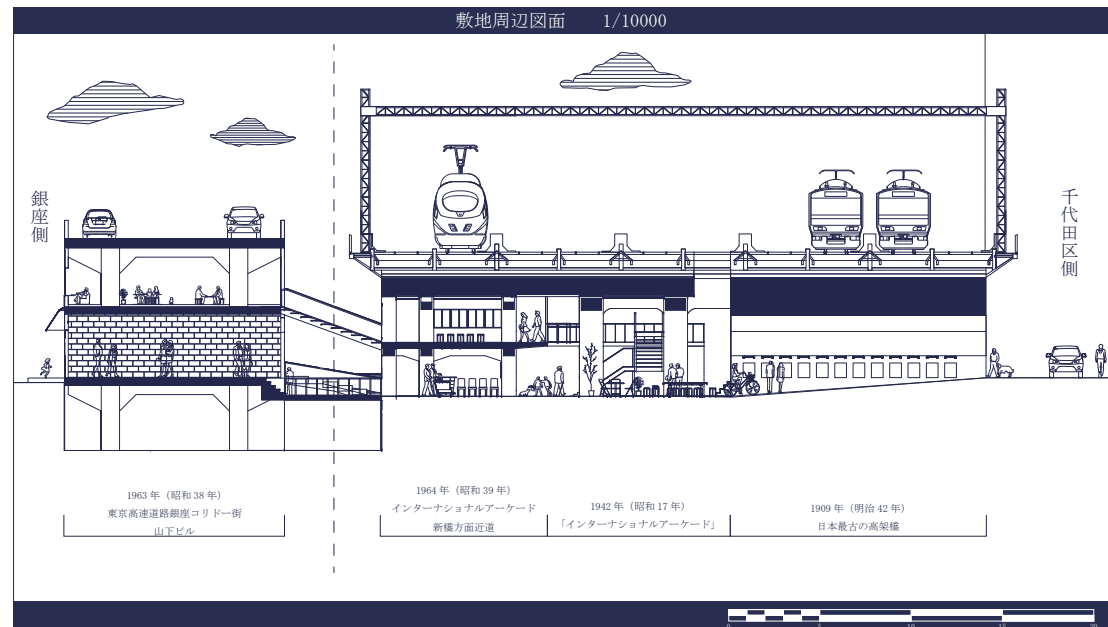
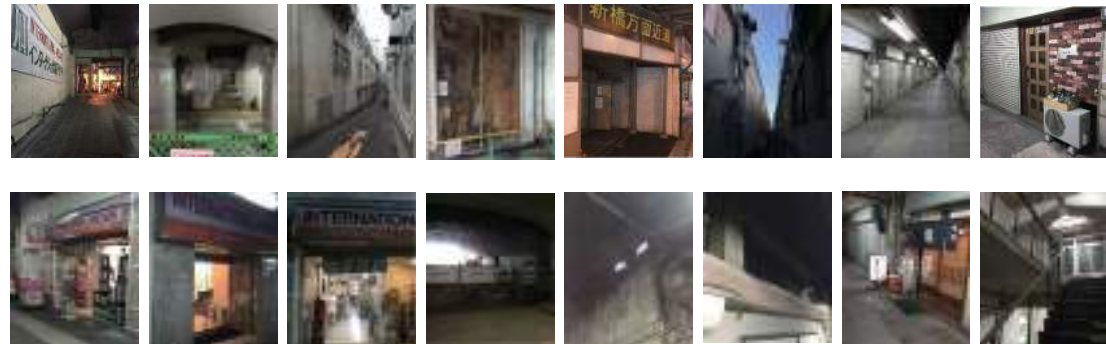
建築の蓄積してきた魅力、歴史性を活かすための新しい建築手法の提案である。
新橋駅と有楽町駅の間、賑やかな飲み屋街の合間に印象的な「インターナショナルアーケード」
という看板を掲げた人通りの少なく暗い通りがある。

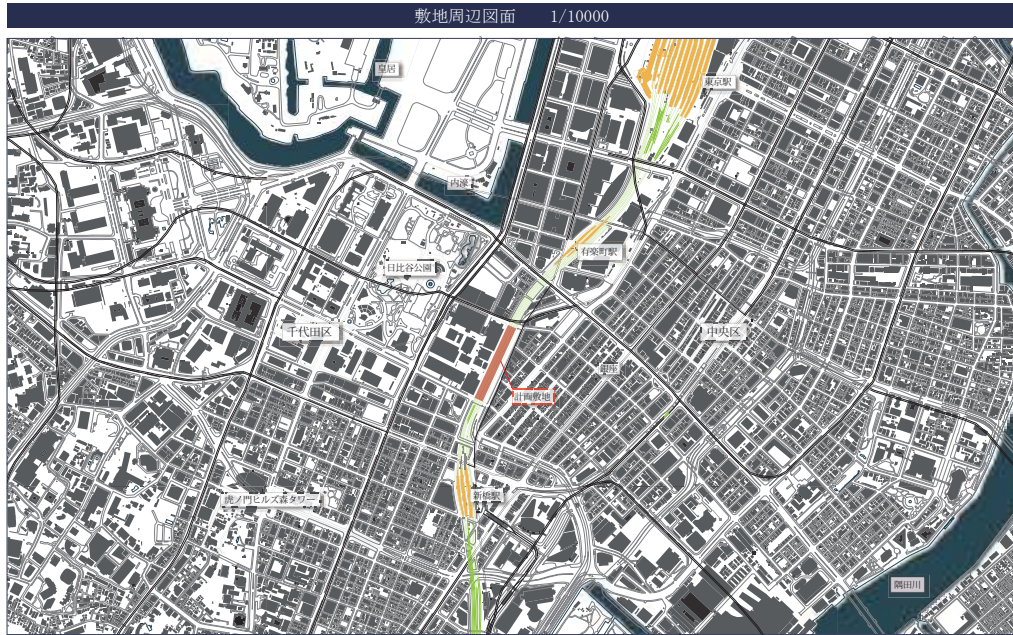
1964年の東京オリンピック時にできたものであり、当初オリンピックの為にデットスペースを解消しようという事で作られた場所で、その他にも日本最古といわれる煉瓦アーチ高架橋、東京高速道路など4つの高架橋が併存する。周辺は活発に成長し開発が進んでいる場所に一点、さまざまな時間を内包し続けてきた場所がある。そのような事例の再構築手法を模索した。そのきっかけとしてレトロフューチャー（懐古的未来）という分類のイラストを分析し、空間それぞれの持つ速度性と、その空間が重なり風景を作る事によりそれを見た人に多様な体験を与える事に着目した。計画地の多層的な高架の関係性を活かしながら、この建築の見え方を変えるように建築を部分的に撤去、新たに異なる速度感を持つ建築装置を付加していく事で、新たな視点を持つ風景へと変化させる。

意識されてこなかった建築の魅力、その見え方を変える事で新たな風景として残していく為の可能性を示せたらと思いこの修士設計に取り組んだ。



敷地風景





■敷地既存建築と成り立ち

異なるの歴史を持つ四つの高架が並存する

時代によってこの場所の価値は変わり、最初は運。その後は人やものを運ぶ重要な手段だった水上交通。
明治になって鉄道へ、そして戦後は自動車へと取って代われ、今の姿となった。今も江戸の町のパスは東京に息継ぎ残っている。



■レトロフューチャー（懐古的未來）イラスト分析

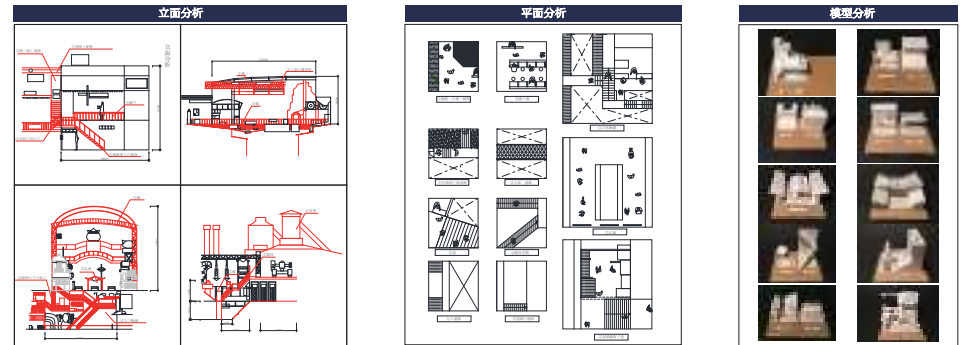
過去と未來、多様な風景を持つイラストを
建築的に分析した

「懐古的未來」に描いているイラストの空間を「イラスト編集分析」「立面分析」「平面分析」「模型分析」を行い、それを分析したところ、その空間が多様な空間の重なりとさまざまな移動速度を示唆する建築的装置の重なりによって構成されている事がわかった。本計画はそのような移動速度を示唆する空間を「速度空間」と呼ぶ。

本計画では「移動速度」「速度感」について建築空間の持つ空間的な速度の特性、例えば階段では平坦な廊下よりも移動速度は低下する。スロープでは階段ほどでは無いという速度は少し低下する。
また、その空間を囲むその他の空間、建物の要素によってもそれは変化していく。そういった空間の持つ速度的な特性、感じ方について、「移動速度」「速度感」という言葉で表しており、そのような移動速度を示唆する空間を「速度空間」と呼ぶ。



左 4枚イラスト：帝国少年；帝国少年 27歳より

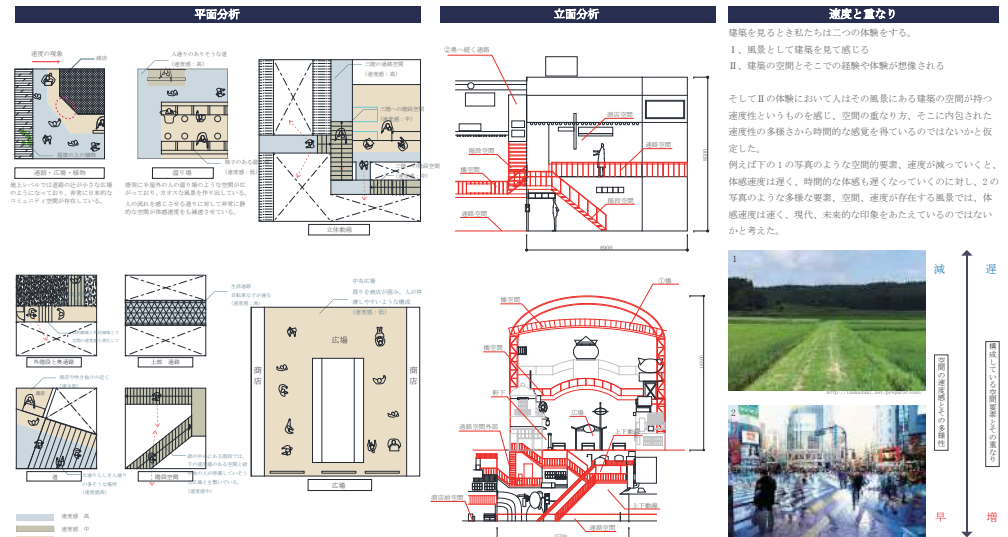


■速度感に注目した分析

空間の持つ速度性とその空間の重なり注目して分析

速度分析（平面・立面）

「空間、場の重なり」「速度性を持つ場の重なり」について分析していくと、そこに描かれた空間には多様な空間性が見て取れた。
「階段空間」「広場」「通路」「辻」など、そしてそれぞれ異なる速度を持つ領域が存在し、多様な場、速度が折り重なって風景を作り出している。



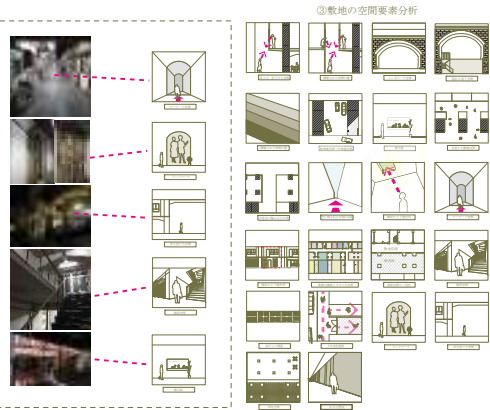
■既存建築分析とイラストの持つ速度空間の抽出

敷地から特徴的な空間、要素を抽出・イラストから速度性を持つ空間を抽出した

敷地、既存建築を分析し、既存では分析されていた空間と特徴的な要素を抽出した。
また、イラストの持つ多様な速度性を持つ空間とその重なりを抽出し、計画の中で既存建築の特徴的な空間性、要素を強調するために活かす事とした。

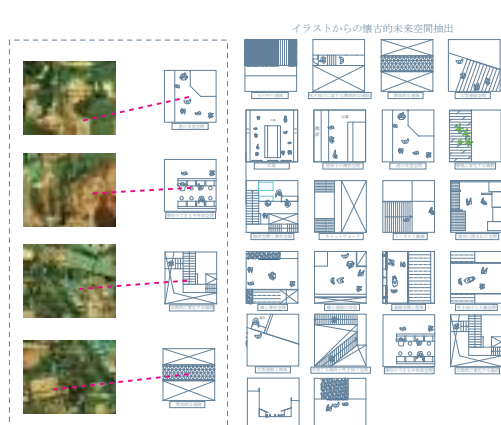
I: 敷地の持つ空間要素の分析と抽出

敷地から空間要素を抽出、それらは現状ではばらばらに点しており、風景として関係を持っていなかった。



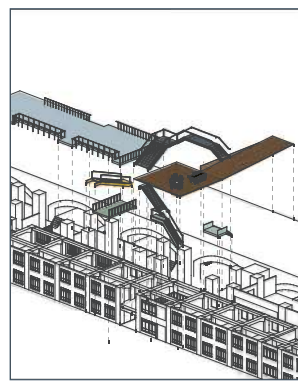
II: 懐古的未来から空間要素を抽出

懐古的未来を構成する空間要素を実験的に抽出する。



III: 速度空間、機能配置の配置

Iで抽出した空間を意識し、壁、床を撤去、「両辺との繋がり」「改修の加減」「速度空間同士の関係」に注意し、速度空間、機能配置を配置していく。



■速度空間配置と空間構成ダイアグラム

既存建築の注目されていなかった空間、要素に多様な速度空間を付加、関係させていく事で新たな魅力を生み出す

敷地、既存建築を分析し、既存では分析されていた空間性と特徴的な要素に対して、イラストから抽出した速度空間を参考に既存建築内に配置していく事で、新たな風景を創出し、これまで注目されていなかったこの建築の魅力を引き出すものとした。

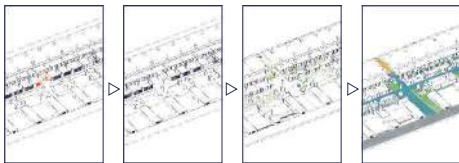
□周辺からのアクセス

周辺の道、横断歩道、道路など、きっかけを元に建築へのアクセスを決定



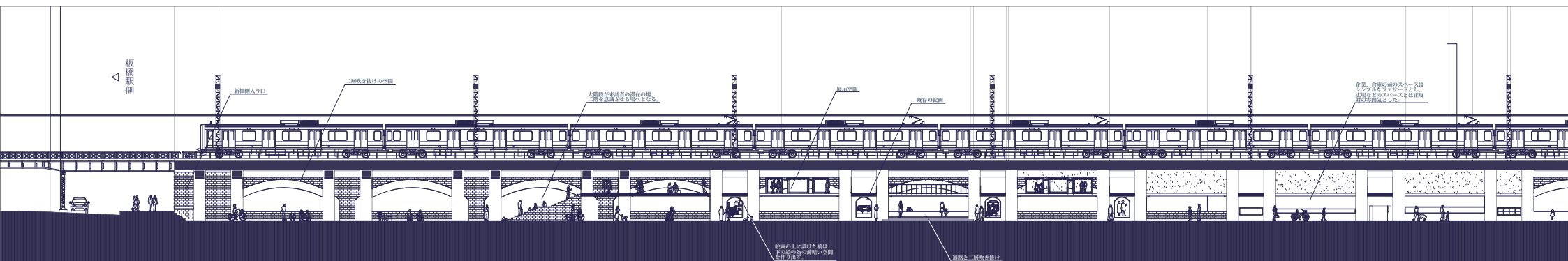
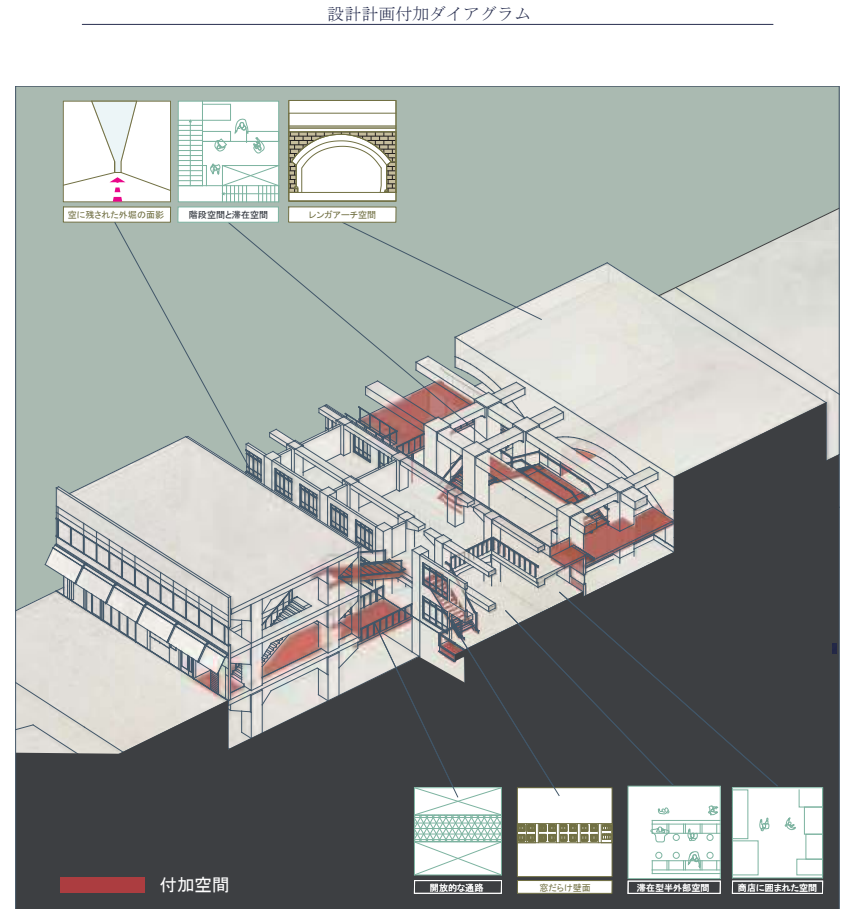
□改修プロセスダイアグラム:

本計画は部分的に撤去、部分的に新たな区間を付加し多様な速度性を内包した場を新たに計画していく、比較的時間的な操作を中心に空間のつながりを意識して計画を行った。



□空間の配置

空間の持つ速度性を考慮し、「場所性」「周辺環境からのアクセス」などを考えながら既存建築の持つ魅力的な特徴を際立たせるよう空間配置した事でそれぞれ分析されていた既存建築から魅力的な空間、要素を強調し新しい風景を作り出そうと考えた。



AA' 断面图 S=1/200

